

2030 SDGsで変える

未来へつなぐ 自分たちの街



移住者にとって住みやすい街づくりについて発表する甲南大学と岡山市芸館高校の8人。11月12日、神戸市

移住者目線の環境づくり

岡山市

移住者が住みやすい街づくりについて考えた。自然災害の少なさなどから転入者の割合を高く保っていた岡山市だが、近年は転出者の増加に頭を悩ませている。岡山市芸館高校と甲南大学の計8人のチームは、岡山の魅力を知

っている県外にいる出身者にUターンで戻ってきてもらえるような環境づくりが欠かせないと意見を交わした。実際に他県から岡山市に移住した人や移住支援団体、地域間交流などの支援を行う「NPO法人まんなか」(同市)に聞き取りを実施。移住支援に関する情報を発信しているSNS媒体の認知度の

徳島市

子連れに優しい旅を提案

徳島で聞かれる「阿波おどり以外何もなし」という言説に対抗しようと、チーム名を「何もなくてひどくない?」と決めた徳島市立高校と甲南大の8人。フィールドワークでは内藤佐和子・徳島市長や観光地域づくり法人(DMO)などを訪ねた。「観光まちづくりの未来」をテーマに、調査や議論を経てたどりついた提案は、子連れにも環境にも優しい「子どもフレンドリーなサステナブルツーリズム」だ。DMO

やNPO法人、自治体などが連携して実現する新たな旅のスタイルとして示した。具体的には、藍染めや阿波人形浄瑠璃などの文化や市周辺の自然を、子どもが住民と交流しながら満喫できるようにする。幼い子がいても気軽に旅に出られるよう、駅やバス停におむつ替えや授乳場所を増設。高速バスには、個室付きで子どもが騒いでもいい、愛らしい動物型の車両を導入することを提案した。



児童館活用 親もメリット

神戸市では、人口減少が想定以上のペースで進んでいる。歯止めをかけるために、どんな子育て支援が必要だろうか。甲南大生と甲南高生の計8人のチームは、児童館に着目した。神戸市は全国の市町村で2番目に児童館が多く、市内に120館ある。8人は、これをもっと生かすことを考えた。

8月末、市内の児童館と、大規模児童施設「こべっこランド」に取材した。児童館では利用者の9割以上が小学生の学童保育で、中高生はほとんどいないことを知った。一方でこべっこランドでは、中高生が受付などにボランティアとして関わり、工作などの催しが多く開かれていた。8人は、児童館にも中高生が参画し、主体的に多様な催しを開けば、もっと活気が生み出せるのではないかと

神戸市

提案。後押しする仕組みとして、児童館でのボランティアが入試で有利になるようにすることなどを挙げた。児童館を利用する親子にとっても、催しで多様な体験ができれば、習い事の負担を減らせるかもしれない。関わるみんなにメリットがあると訴えた。甲南大文学部3年の横川絢さんは「神戸でうまくいけば、全国にも広がるんじゃないか」と期待を込めた。



こべっこランドで職員から説明を聞く学生たち。8月24日、神戸市

持続可能な社会を目指し、甲南大学生と地元の高校生が地域の課題に取り組むイベント「関西湾岸SDGsチャレンジ」(主催=甲南大学、朝日新聞社メディア事業本部、後援=神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市)が7月から11月にあった。甲南大(神戸市東灘区)の学生と高校生が5チームに分かれ、自治体を担当。現地での調査を進め、議論を深めた。11月12日、甲南大で発表した。



ふせんを使って意見を出し合う堺市チーム。7月16日、神戸市

働きやすい企業が増えれば、定住者や移住者が増え、地域発展につながるのではないかと。甲南大生と市立堺高校の計7人で構成された堺市チームは、働きやすい職場づくりに必要な新しいアイデアを探った。アルバイトでの体験を共有したり、国の調査を参考にしたりしながら、何が「働きやすさ」の壁になっているのかを考えた。そのうえで、堺市内の先進的な取り組みをしている9企業に、フィールドワークやインタビューを実施。課題を解決するためには、社内でのコミュニケーションを取りやすい仕組みを作ることな

堺市

働きやすさアイデア探る



みその商店街の催しでアンケートをするメンバー。10月14日、和歌山市

中心市街地である「まんなか」地区をどう元気にするか。高齢化と人口減少に悩む和歌山市からの問いは難題だった。注目したのは、東西南北に数多く延びる商店街。ご多分に漏れず、シャッターが閉まったままの店舗が多いという。8月、「みその」「北ぶらくり丁」の二つの商店街の関係者に話を聞いた。出店希望者を募っての「ま

和歌山市

まんなか再興 難題トライ

「市内の学校で催しのクーポン付きチラシを配る」「近隣の駐車場を安く使えるように」。提案をまとめる際には問題の難しさも痛感した。一方で得たものは少なくない。市和歌山高3年の田中宏樹、武内歩夢の両君は「地元の魅力を発見した。またボランティアに参加したい」。和歌山市出身の甲南大経営学部1年、谷口広奈さんも「アンケートで同世代が地元の再興へがんばっているのを知った。私も取り組みたい」。

◇この特集は西晃奈、山根久美子、田部愛、田中雄一郎、鈴木智之、森下友貴が担当しました。